

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290700164		
法人名	社会福祉法人 浜田福祉会		
事業所名	グループホーム美川の郷 かがやきユニット		
所在地	島根県浜田市内村町843番地		
自己評価作成日	令和4年2月13日	評価結果市町村受理日	令和4年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和4年3月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は新型コロナウイルス感染蔓延に伴い、地域の活動参加や外出できる機会がほとんどなかった。その分、感染症予防に取り組み、ご利用者様やご家族様からのニーズを活動に活かせるよう情報共有し、施設内でのイベントや企画を定期的に行っている。作って食べる楽しみとして継続し、初めての試みとして自施設の畑で作った芋で焼き芋会をしたり、年越しの手作りうどんなどの企画を行った。引き続いてイベントなどの規模の縮小が余儀なくされているが、全職員がご利用者様の楽しみや喜びを引き出すことに協力している。ご利用者様と一緒にいった避難訓練の経験が活き、8月の水害警報時はスムーズな避難ができた。年明けから島根県の蔓延防止重点措置に伴い、実際に感染症が起きた時の備えとしてシミュレーションや他部署のヘルプ体制構築に向けて前進している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を基に事業所の目標を作り、職員も個人目標を立てて実践し、振り返り話し合い互いの向上に繋げている。コロナ禍で制限、自粛の中であるが、諸活動を企画、実施する中で職員同士がアイデアを出しあって試行錯誤しながら工夫し、利用者の笑顔に繋がるように取り組んでいる。地域との関係作りもコロナ禍、自然災害の発生、人口減少化等諸々の難題はあるが、事業所として共生出来る社会作りに積極的に参加していくよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示し、目に触れるようにしており毎日の腰痛体操に取り入れたり月に1度の事業所経營業務改善会議にて職員で唱和している。	理念を基に事業所の目標を作り実践している。利用者支援に繋げるように困った時には理念に立ち返り共有し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度の「美川の郷カフェ」を開催し地域の方にも参加頂き交流の場を設けている。ただこの2年間はコロナの影響で地域の方の参加は出来ていない。園児達との交流も出来なかった。	コロナ禍の中でも町内会とは必要なことは連絡を取り合っている。中学校からは生徒の作ったお茶が届けられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の事業所経營業務改善会議にて認知症勉強会を行い認知症への理解・実践へと繋げている。コロナの影響で地域との関りも出来ない為再開すれば活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響でご家族様は書面のみで報告となったが、会議は日程の変更はあったものの開催することが出来き報告や話し合いを行ってきた。そこで出た意見はサービスの中に取り入れている。参加者からの意見をもとに行事を計画している。	参加者と意見交換をしたり相談等をしている。行事への提案、地域の実情や困っている事等について話し合い、社協に相談し対応してもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き事業所の様子を伝えまた市町村担当者から情報を得る機会も多く意見交換の場ができ協力関係を築く事が出来ている。	日頃より連携を取りながら情報交換を行っている。困ったことがあれば相談し、出来ることはすぐ対応してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束にあたるのかをまず理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。必要とされる場合には、会議の場を設け3要件を満たしているか、他の対応方法は無いかな等の検討を行い記録に残しご家族様の理解を得ている。	「拘束しないケア」を常に意識して取り組んでいる。本年度は動画を用いて研修し職員の意識を高めた。転倒予防の離床センサーは危険を防ぐ目的としてのみの使用で行動を制限しない支援を話し合い取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立ち上げると共に3ヶ月毎に「虐待の芽チェックリスト」を行う事で意識付け、周囲の言葉かけ1つ1つが虐待に値していないかを意識付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内での研修は行っていないが、本部主催の動画研修や外部の研修に出て学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明を行っている。疑問点があればきちんと答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族への満足度調査実施し職員への周知を行った。運営推進会議に地域の方やご家族・ご本人に参加して頂き、行事や活動の報告を行っている。今年度はコロナウイルスの影響もあり参加に至らず書面参加頂いた。	毎月「美川の郷便り」を写真を多くして送り、ビデオ通話も取り入れ利用者の様子を見てもらっている。「自分で出来る事はやらせてほしい」などの意見や要望を支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の面談や、会議等の場で意見や提案を聞く場を設けている。毎月、検討会議を行い、その都度対応している。	日々、気付きや意見を出し合いが必要があればユニット会議で話し合っている。利用者の状況や業務について検討し改善に繋げるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長による職員1人1人と面談する機会を年4回持ち、職員の思いを聞く機会を持っている。勤務状況等は把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標管理シートを作成し、それぞれが自分の目標を持って働いている。エルダー制度を導入し、新人が一人で悩まないような取り組みを行ったり、教育ガイドラインを活用し、職員育成を行っている。研修を受ける機会は確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで、同業者と交流する機会が持っていたがコロナウイルスの影響にて研修が中止。同業者作成の動画研修などを通して学びの場を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話の中でも希望や要望は傾聴させていただき、言葉に表せない方にも行動や表情から気持ちを汲めるよう、場所や時間などにも気を付けながら落ち着いて話せるよう配慮をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすいように落ち着いたトーンで対応している。意向確認を行い、ご家族様の意向を聞かせて頂き、こちらからも施設での様子をお伝えさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族から生活歴や既往歴を聞き取り、新しい環境でも安心して生活して頂けるよう努めている。また、緊急時の連絡先なども明確にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	好きな事ややりたいこと、興味のある事を聞き出し家事やレクリエーションを一緒に行うことで、役割や達成感を見出し生活を楽しんで頂ける支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響で面会制限や中止があった分、電話連絡やかわら版、ブログを通して様子を知って頂くことができた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で外出がほとんどできなかつた分、ご家族・親戚・友人への年賀状や手紙等で近況報告している。また少人数での馴染みの場所訪問の企画を予定中。	家族や知り合い等、身近な人とも会えない状況の中で、不安や心配する利用者にも少しでも気分転換になるように安全対策を取り出来る事から支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係性を情報共有し対応に当たっている。家事やレクリエーション、施設内行事と一緒に参加して頂くことでお互いを知り支えられる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	県外や他施設へ入所された方とは関わる機会少なく、ご家族様などに出会った際にはご挨拶などさせて頂いている。同法人の施設入所をされた方にはこちらでアセスメントした情報を共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から情報収集を行ったり、希望や意向が引き出せるよう努め、職員間で共有できるよう申し送りに記録している。ご本人からの情報収集が難しい場合は、ご家族に生活歴や普段の様子を教えて頂き検討している。	本人はもちろん、特に家族との信頼関係作りを大切にしている。笑顔で接し相手の心を開いてもらえるように努め、少しでも気持ちに添えるような支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調の際のご本人・ご家族への聞き取りや、可能であればご本人の生活スペースを見せて頂いている。家族の写真を飾り安心感を持っていただいたり、使い慣れた家具を使用させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握として得意な事や苦手な事、自立している部分・声掛け・介助を要することも生活記録に残し、カンファレンスや評価として共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を交えての話し合いの場はあるものの、ご家族と会話する機会が少ない。その為、計画変更時・更新時にはご家族へ意向確認・計画内容の説明を行っている。意向が反映される計画作成に努めている。	職員は担当制で日頃より利用者を理解して介護計画に取り入れている。見直しは状況に応じて柔軟に対応している。現在、家族のカンファレンスへの参加は難しい状況である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンスで情報共有はできている。職員間の会話の中からそれをもとにし実践されたことや気づき・工夫を聞くこともあるがケアの実践や工夫、詳細な記録はできていない事が多い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルスの影響で外出等ほとんどできなかった。代わりに季節を感じて頂く企画や、施設内で対応できる事は可能な限り対応した。(バーベキュー・おせち料理・美味しい物が食べたい等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で今までできていた地域行事への参加や、地域の方を招いた行事が行えなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族と相談し、かかりつけ医を決めている。受診困難な方はご家族や医師と相談し、往診という形で適切な医療を受けられる体制をとっている。	定期的な受診、往診があり日頃の様子を伝え、家族に結果報告している。専門科医への受診は家族対応であるが要請があれば事業所で介助支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う様子みられた際は、速やかにオンコールで保健師に報連相を行っている。主治医や看護師とも情報共有がなされており、必要時の受診も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院や家族とこまめにやり取りをしている。コロナ禍の為面会が出来ない為、退院後に安心して生活できるよう小まめに情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは本人・家族の意向を聞き取っている。医療的なケアが必要になった場合の対応等の説明をしたり、主治医からの助言を家族に伝えたり、必要であれば他施設の情報提供や、申し込み等の話もしている。	希望があれば意向を聞き関係者で相談をしながら事業所で出来る限りの支援をしている。現在も該当の人があり終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は新型コロナウイルスの影響で救急法の実践的な研修は中止となったが、全職員へ法人内動画研修として学びの場を設けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年8月大雨による浸水を守る為美川苑に避難を行った。本部との連携によりご利用者全員無事に避難し夜を過ごした。災害時には協力してほしいと話しているが実際にはまちづくりセンターへの避難は難しい。(階段等)	昨年の経験を活かし本年は各事業所から職員が参加して災害時の炊き出し訓練を行い、振り返りをし改善点を挙げ取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を人として尊重し、個性やプライバシーを理解したうえで丁寧な言葉で声掛けや対応をさせて頂いている。	利用者の個性やプライバシーを尊重し、単なる指示でなく具体的に詳しく説明し、了解を得た上で介助や支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や希望の表出がゆっくりな方もおられるが寄り添い選択して頂ける工夫し自己決定をしていただける支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位の介助を行うのではなく、ご本人がどうしたいかを常に聞かせて頂き、それぞれの方の生活リズムを知り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時など、好みの服装を選んでいただけるよう支援している。鏡の前で整容できる声掛けも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な事ややりたい事を活かして調理や片付け、お盆・皿洗いやお盆拭き等、役割を持ち力を発揮して頂けている。	月一度の「弁当の日」は選べる楽しみがあり喜ばれている。合同でのイベントや食事会でユニット間の交流を行いにぎやかに気分転換に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握できている。水分量が少ない方には希望されるものや好みの飲み物を提供、また体重の推移を見ながら栄養補助食品を使用したり、個々の希望する量や形態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる所はご自分でしていただき、必要時は介助させていただいている。週1回歯科往診あり、口腔内の状態や治療・口腔ケアのアドバイスあり、それに沿ったケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りご本人の希望される下着を使用している。排泄コントロールをしている方や尿意・便意が曖昧な方の排泄記録を行い、トイレでの排泄を促すためトイレの声掛けを行っている。	トイレでの排泄を大切にして取り組み、利用者の状態を細かく把握しその人の特徴を職員間で共有し支援している。現在全利用者にてトイレでの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、毎日の運動と生活の中でできる取り組みをしている。必要時には腹部の張りや違和感がないかご本人へ確認しながら腹部マッサージを行っている。主治医と相談し、必要な方へは軟便剤や下剤の処方に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴ができるように曜日と時間帯はある程度設定をしているが、その日のご本人の体調や気分に合わせて入浴が行えるよう支援している。	利用者の状況に柔軟に対応し入浴してもらっている。好みに合わせて湯加減を調整し長湯を希望される人にも体調に配慮して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スタイルに合わせて居室でテレビを観たり、居間のソファでゆっくりと休息がとれる配慮を行っている。環境作りとして居室の気温・湿度の管理に取り組んだ。不安などで眠れない時は職員が話を聞かせて頂き安心して暮らすよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人・ご家族から薬の内容を聞かれた際にどの職員でもすぐにご説明できるよう、個人ファイルに薬の説明書を綴り共有している。何か変化があった時にはかかりつけ医や看護師へ報連相を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常生活の中でできる事、やりたい事を楽しんでできるよう援助している。した事のない事でも興味を持たれたら一緒にしていただき役割を見出せる援助に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年も新型コロナウイルスの影響で人出のある場所には外出ができなかった。規制が緩和された時期をみて利用者から希望のあった紅葉見物や初詣へは感染症対策をとりながら企画を練り出されかけた。	今までのような外出はまだ出来ないが、周辺の散歩や外気浴には出かけている。利用者の状況を見ながら安全対策をしてドライブや買い物に出る事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で現金を所持していない方がほとんどだが、自分で管理できる方は自分で財布を持っておられ、職員と買い物に行った際に、自分で好きなものを買われていた。コロナが収束すればまた外出の機会を設けたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルスの影響で外出や面会に制限があった分、手紙やはがきでのやり取りや、希望時に電話での近況報告をご本人からできるよう支援した。娘様からのハガキを心待ちにしておられる方多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう室温・湿度・照度に気を付けている。季節に合わせた飾りつけをしたり、利用者が希望されたソファのレイアウトへ都度に変更し、外の風景も眺められるよう工夫した。トイレやテーブル上を小まめに清潔を心掛けている。	皆で考え作った季節を感じる飾りつけや、壁面にも花や季節感のある絵、写真を掲示している。トイレにはぬり絵や花を置いたりして少しでも気持ちが安らいでもらえる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方との同席配慮や、自席が分からない方へ目印や声掛け・誘導を行っている。固定ではなく、その日の気分で座る場所を変えても大丈夫なように配慮した。ソファで外を眺めたりできるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具を持参・使用して頂いている。家族の写真や好きな動物の写真なども飾らせていただき、居心地よく過ごせる工夫をしている。	使い慣れた家具類や大切な持ち物、家族の写真やプレゼントが置かれている。本人の気持ちを聞いて居心地良く使い易い居室になるよう支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要時使用できるよう共用スペースには全て手すりが設置しており、トイレにはわかりやすいように表示を行っている。利用者が自立して安全に家事などが行えるよう故障個所の修理や点検を行っている。		